



帝京平成大学
オープンキャンパス

薬学部

楽しく学ぼう！

2023 08 05

模擬授業

体験実習

オープンラボ

ガイド

薬学部・オープンキャンパス タイムスケジュール

◆ 薬学科のご説明 (是非ご参加ください) (3階 303教室)
10:10~10:40 12:50~13:20

◆ 模擬授業 (3階 303教室)
「アナフィラキシーショックの病態とその治療薬」
10:40~11:00 13:20~13:40

◆ 体験実習 (3階 調剤実習室 318)
「薬剤師の軟膏調剤を体験してみよう！」
第1回 11:10~12:00 第2回 14:00~14:50
上記以外の時間にも施設見学は受け付けています (10:00~15:00)

◆ オープンラボ (4階 415研究室)
「細胞や組織を見てみよう」
10:00~15:00

◆ 学生交流・進学相談 (5階 アリーナ)
「薬学部のこと、薬剤師のこと、なんでも訊いてみよう」
10:00~15:00

その他 (全学部共通)

入学者選抜説明	2階 225教室	11:10~11:50	13:50~14:30
面接対策講座	1回目 2階 225教室	12:00~12:30	
	2回目 2階 203教室	13:50~14:20	
食堂体験	1階 ダイニングホール	11:00~15:00 (ラストオーダー 14:00)	

以下は10:00~15:00

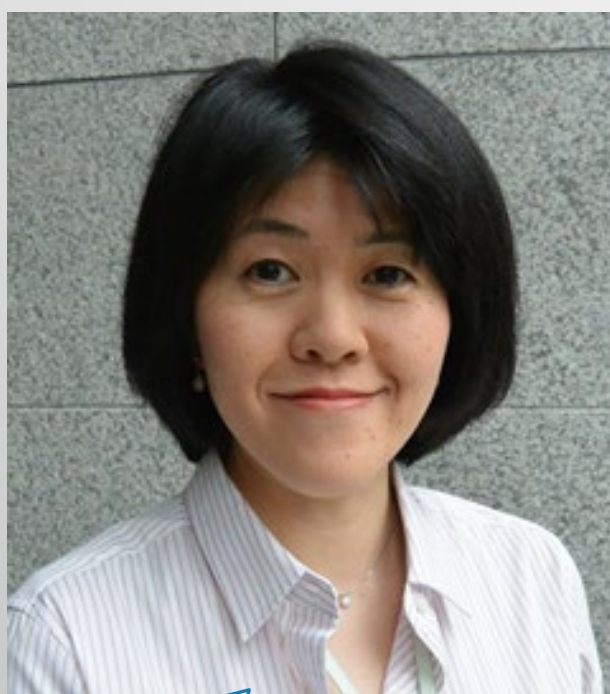
個別相談 (入学者選抜・奨学制度)	5階 アリーナ
就職相談	1階 就職支援室
メディアライブラリーセンター見学	8階 図書館
キャンパスツアー	1階 103パソコン演習室集合
薬用植物園見学	7階 エレベーター横



模擬授業 10:40-11:00 13:20-13:40
303教室 (3階)

アナフィラキシーショックの 病態とその治療薬

生命に危機を与えうる過敏反応をアナフィラキシーといいます。少し前になりますが新型コロナウイルスワクチン接種にあたって、副反応であるアナフィラキシーについて多くの報道がなされてきました。薬剤師として患者さんの疑問や不安に応えるためにも、その症状などについて正しい理解が必要です。この模擬授業では、アナフィラキシー及びアナフィラキシーショックの病態とその治療薬についてお話ししていきます。



准教授 秋山 晴代
薬物治療学ユニット

薬物治療学では様々な疾患の病態や症状を理解し、ガイドラインに基づいた薬物治療を学んでいきます。

昭和大学大学院薬学研究科修士課程修了、博士（薬学）。国立医薬品食品衛生研究所、東京大学医科学研究所、コヴィディエンジャパン株式会社(メトロニック)、昭和大学、日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター、神奈川県衛生研究所を経て、現在に至る。

体験実習

薬剤師の軟膏調剤を体験してみよう！

会場・時間

調剤実習室（3階 318）

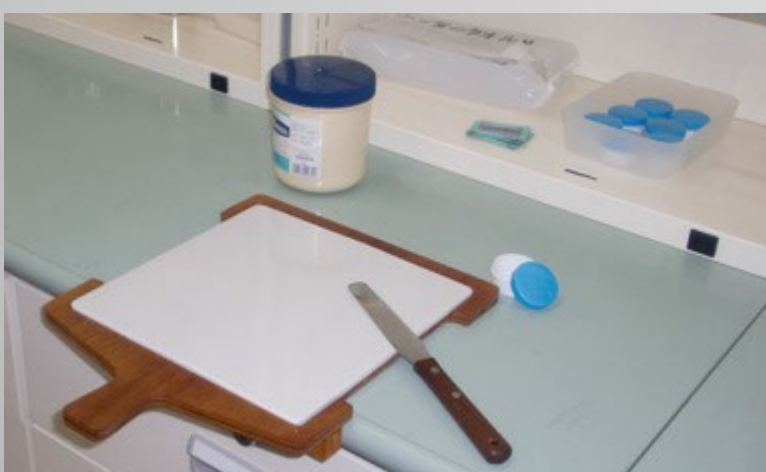
第1回11:10～12:00/第2回14:00～14:50

上記以外の時間にも施設見学は受け付けています（10:00～15:00）

- 薬剤師が処方箋に基づく調剤や製剤を行う場合に取り扱う薬物には、錠剤、散剤、水剤、外用剤などいろいろな剤形があります。
- 調剤においては、製品をそのまま使用する場合と、複数の薬剤を混合して容器に充填するなど調製が必要な場合があります。
- 今回は、軟膏をへらを使って混合し、容器につめてみましょう！

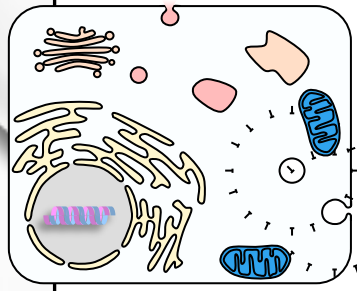
- 担当教員 薬学臨床教育研究センター
臨床薬物治療学ユニット 清野 敏一

薬剤調製時には、マスクとキャップを装着しましょう！
マスクは顎まで覆います。



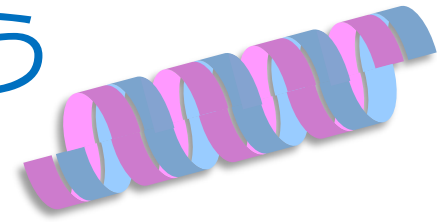
キャップは耳までかぶせましょう！

- 薬学臨床教育研究センター
臨床薬物治療学ユニット 栗林 和美



オープンラボ

薬学のラボを体験しよう！！
細胞や組織を見てみよう



会場・時間

専門ラボ5 (415 研究室 4階)
10:00~15:00

私たちの体は、細胞という小さな『粒』が集まった組織や臓器でできています。そして、この細胞や組織で働いているタンパク質は、様々な疾患と関与することが知られています。私たちは、これらタンパク質の研究を行うことで、新しい薬の標的を見つけようと試みています。今回のオープンラボでは顕微鏡で細胞や組織を観察することで、普段おこなわれている研究の一部を体験してみてください。

担当教員

ヒトの体には約60兆もの細胞が存在し、それぞれの細胞がつくるタンパク質が生命現象を調節しています。普段は目に見えない細胞や組織を実際観察してみましよう。



分子細胞制御ユニット

八代田 英樹

分子細胞制御ユニット

金憲誠



新しい薬の開発には、その対象である病気や疾患の背景にある生命現象を詳しく理解することが必要です。そのため薬学部では分子・細胞レベルでの基礎的な生命科学の研究も活発におこなわれています。

